

2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月8日

上場会社名 株式会社JBイレブン
 コード番号 3066 URL <http://www.jb11.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 2019年11月11日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 名
 (氏名) 新美 司
 (氏名) 田畠 英幸
 TEL 052-629-1100

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	3,761	4.2	82	125.3	85	80.4	19	238.5
2019年3月期第2四半期	3,610	3.1	36	54.4	47	42.9	5	87.7

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 19百万円 (19.8%) 2019年3月期第2四半期 15百万円 (71.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	2.62	2.62
2019年3月期第2四半期	0.81	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	4,963	1,245	25.1
2019年3月期	4,590	946	20.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 1,244百万円 2019年3月期 945百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	2.50	2.50
2020年3月期	—	0.00			
2020年3月期(予想)			—	2.50	2.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年 3月期の連結業績予想(2019年 4月 1日～2020年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,655	5.3	128	6.5	128	10.4	23	34.8	3.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	7,433,500 株	2019年3月期	7,048,700 株
2020年3月期2Q	7,450 株	2019年3月期	5,250 株
2020年3月期2Q	7,369,265 株	2019年3月期2Q	7,038,069 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であるとする一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
（1）四半期連結貸借対照表	4
（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
（継続企業の前提に関する注記）	8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	8
（重要な後発事象）	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から同9月30日までの6か月間）の経済概況は、米中摩擦が激化する中、貿易の弱まり等、経済減速が表面化しました。国内消費は、雇用・所得環境の改善等を背景に、概ね堅調な推移でしたが、インバウンド需要に不確実性が高まりました。

外食産業全般では、一層のオーバーストア状況に加え、労働関係法令改正への対応や、人手不足に伴う人件費の高騰等、経営環境は大変厳しい状況のまま推移しました。

このような環境下で当社グループは、4月より新たにフランチャイズ制度を導入し、社員起業での経営委託制度によるフランチャイジー店舗として、第1号店（「一刻魁堂」豊川インター店／愛知県）を、直営店から転換しました。また、当期間の新規出店は3店舗（静岡県3店舗）で、12店舗で改装を実施する一方、不動産賃貸借契約の期間満了により1店舗（奈良県）、および不採算店1店舗（愛知県）、計2店舗の退店をしました。

これらの結果、当期間末のグループ店舗数は89店舗（前年同期比2店舗の増加）となり、その内訳は下表の通りです。

（単位：店舗、後ろの数字は内フランチャイズ店舗数）

部門／業態		当期間末 店舗数	前年 同期比	関東 地区	東海 地区	関西 地区	中国 地区	九州 地区
合 計		89/1	+2	11	63/1	7	5	3
ラーメン部門	小計	57/1	-3	3	51/1	2	1	-
	一刻魁堂	49/1	-5	3	43/1	2	1	-
	桶狭間タンメン	7	+2	-	7	-	-	-
	ロンフーエアキッチン	1	±0	-	1	-	-	-
中華部門	小計	24	+1	4	8	5	4	3
	ロンフーダイニング	18	±0	3	4	5	3	3
	ロンフービストロ	4	±0	1	2	-	1	-
	ロンフーパティオ	1	±0	-	1	-	-	-
	ロンフーキッチン加木屋中華	1	+1	-	1	-	-	-
その他	コメダ珈琲店	8	+4	4	4	-	-	-

営業施策としては、働き方改革の一環として、年間5日の店舗休業日を設け、当期間中には郊外型店舗42店舗にて5月13日、14日を連休として営業休止しました。これを含め、賃金の大幅な昇給、有給休暇取得の推進等、労働環境改善を一層進めました。また、引き続き、店舗組織力や、オペレーション力向上により、商品力・サービス力を改善し安定させることに注力し、教育の充実、生産性の向上に取り組み、6月より、全店で全席禁煙化も実施しました。

これらの結果、既存店売上高は前年同期比101.2%となりました。

また、前期より子会社に加えた株式会社ハートフルワークでは、4月に「コメダ珈琲店」3店舗（磐田今之浦店・掛川宮脇店・浜松原島店）の営業譲受による新店を加え、合計8店舗としました。

原価面では、各業態での価格改定効果が表れ、売上原価率は27.8%となり、前年同期比1.0ポイント改善しました。

販売費及び一般管理費では、店舗の生産性向上が大きく、その売上高に占める割合は70.0%となり、同0.2ポイントの改善となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,761百万円（前年同期比4.2%の増収）となりました。

利益面では、売上高の増加により諸経費の増加をカバーした結果、営業利益82百万円（同125.3%の増益）、経常利益85百万円（同80.4%の増益）となりました。

また、将来の投資回収が見込めない1店舗の資産価値を減じたことによる減損損失29百万円、12店舗の改装等に伴う固定資産除却損11百万円、および2店舗の退店に伴う損失9百万円、以上合計50百万円を特別損失に計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は19百万円（同238.5%の増益）となりました。

部門別の状況は次のとおりです。

（ラーメン部門）

当部門の業態は、「一刻魁堂」、「桶狭間タンメン」および「ロンフーエアキッチン」です。

当期間の新規出店は無く、「一刻魁堂」7店舗（稲沢店、松河戸店、一ツ木店、朝日店、四日市インター店、岡崎石工団地店、サンステーションテラス福山店）で改装を実施し、退店は「一刻魁堂」2店舗（ならファミリー店、尾張旭南栄店）でした。また、「一刻魁堂」豊川インター店は、直営店からフランチャイズ店へと転換しました。

これらの結果、当期間末の当部門の店舗数は57店舗（前年同期比3店舗の減少）となり、その内訳等は、上記の表の通りです。

主力の「一刻魁堂」業態では、各時間帯の価格改定を進め、広告宣伝面で店舗数の多い東海地区を中心に媒体間の連動性を強化し、また、テレビ番組企画として開発した「元祖白だし仕立て健康野菜のタンメン」をはじめ、「ボロネーゼ風茄子ときのこの麻婆まぜそば」等の季節商品も展開した結果、順調に業績が拡大しました。

「桶狭間タンメン」業態では、前期の積極的な店舗展開の反動がみられる中、時間帯別の商品構成の見直しや、オペレーションの再構築等を推進しました。

中部国際空港内フードコートに出店する「ロンフーエアキッチン」は、価格改定および設備増設の結果、インバウンドの追い風もあり大幅な業績拡大となりました。

以上の結果、当部門の既存店売上高は、前年同期間に比して100.8%となり、客数は同97.6%となりました。

また、部門合計の売上高は2,403百万円となり、前年同期比2.8%の減収となりました。

（中華部門）

当部門の業態は、「ロンフーダイニング」、その派生業態である「ロンフービストロ」、および「ロンフーパティオ」、ならびに「ロンフーキッチン加木屋中華」です。

当期間には、新規出店は無く、「ロンフーダイニング」1店舗（イオンモール大阪ドームシティ店）で改装を実施、退店はありませんでした。

これらの結果、当期間末の当部門の店舗数は24店舗（前年同期比1店舗の増加）で、その内訳等は、上記の表の通りです。

「ロンフーダイニング」、「ロンフービストロ」、および「ロンフーパティオ」業態では、立地タイプ別にプレゼンテーションやオペレーションの改善を図った結果、前期に実施した価格改定との相乗効果もあり、売上、生産性および原価面でも成果がみられました。

商品面では、従前からの高付加価値路線を踏まえ、季節商品「豚バラ入り台湾チャーハン」、「牛もつ入り石鍋麻婆茄子」等を販売、デザートでは、「アールグレイ香る紅茶と白桃ムースの杏仁」等を販売しました。

また、都心立地型の5店舗において、消費税増税もにらんだ売上増加策として、デリバリーサービスのウーバーイーツを導入し、一定の成果がみられました。

前期に新業態として出店した「ロンフーキッチン加木屋中華」は、引き続き、他社にない特長をもった中華の郊外型店舗として、その業態確立を推進しました。

以上の結果、当部門の既存店売上高は、前年同期間に比して102.4%となり、客数は同94.9%となりました。

また、部門合計の売上高は1,017百万円となり、前年同期比1.7%の減収となりました。

（2）財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,423百万円となり、前連結会計年度末に比べ293百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金が342百万円増加したためです。

固定資産は3,539百万円となり、前連結会計年度末に比べ79百万円増加しました。主な要因は、建物が21百万円増加、差入保証金が10百万円増加したためです。

流動負債は1,732百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円減少しました。主な要因は、未払法人税等が23百万円増加した一方、短期借入金が100百万円減少したためです。

固定負債は1,985百万円となり、前連結会計年度末に比べ64百万円増加しました。主な要因は、長期借入金が91百万円増加したためです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年11月8日に公表しました『2020年3月期第2四半期累計期間連結業績予想と実績の差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ』をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	680,362	1,023,244
売掛金	34,744	46,902
預入金	135,135	105,545
店舗食材	16,362	17,864
仕込品	40,069	37,271
原材料及び貯蔵品	21,110	19,268
その他	204,213	175,484
貸倒引当金	△1,706	△1,743
流動資産合計	1,130,293	1,423,837
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,524,989	1,546,300
土地	587,734	587,734
その他（純額）	290,197	308,940
有形固定資産合計	2,402,921	2,442,976
無形固定資産		
のれん	54,980	49,826
その他	9,535	20,379
無形固定資産合計	64,516	70,206
投資その他の資産		
差入保証金	642,125	652,574
その他	350,735	374,233
投資その他の資産合計	992,861	1,026,808
固定資産合計	3,460,299	3,539,990
資産合計	4,590,593	4,963,828

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	261,397	255,745
短期借入金	100,000	-
1年内返済予定の長期借入金	888,320	901,396
未払法人税等	10,854	34,786
賞与引当金	42,459	47,906
資産除去債務	6,135	-
その他	440,434	492,797
流動負債合計	1,749,600	1,732,632
固定負債		
長期借入金	1,525,924	1,610,452
退職給付に係る負債	38,020	39,444
資産除去債務	257,053	265,323
その他	73,072	70,304
固定負債合計	1,894,069	1,985,523
負債合計	3,643,669	3,718,156
純資産の部		
株主資本		
資本金	670,198	818,677
資本剰余金	275,693	424,172
利益剰余金	△27,029	△25,297
自己株式	△430	△430
株主資本合計	918,432	1,217,120
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,385	27,087
その他の包括利益累計額合計	27,385	27,087
新株予約権	1,105	1,463
純資産合計	946,923	1,245,671
負債純資産合計	4,590,593	4,963,828

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	3,610,070	3,761,707
売上原価	1,036,985	1,044,557
売上総利益	2,573,085	2,717,150
販売費及び一般管理費	2,536,426	2,634,544
営業利益	36,658	82,606
営業外収益		
受取利息	183	4
受取配当金	3,066	1,487
賃貸不動産収入	7,800	7,814
その他	20,419	8,310
営業外収益合計	31,469	17,617
営業外費用		
支払利息	7,184	6,778
賃貸不動産費用	7,319	7,299
その他	6,213	606
営業外費用合計	20,717	14,684
経常利益	47,410	85,539
特別損失		
固定資産除却損	17,057	11,695
退店に伴う損失	12,190	9,268
減損損失	—	29,373
特別損失合計	29,247	50,338
税金等調整前四半期純利益	18,162	35,201
法人税、住民税及び事業税	2,460	25,328
法人税等調整額	9,988	△9,467
法人税等合計	12,448	15,861
四半期純利益	5,714	19,340
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,714	19,340

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	5,714	19,340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,184	△298
その他の包括利益合計	10,184	△298
四半期包括利益	15,898	19,042
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,898	19,042
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	18,162	35,201
減価償却費	101,619	117,814
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	910	1,424
賞与引当金の増減額（△は減少）	5,844	5,447
受取利息及び受取配当金	△3,250	△1,492
支払利息	7,184	6,778
固定資産除却損	17,057	11,695
減損損失	—	29,373
退店に伴う損失	12,190	9,268
売上債権の増減額（△は増加）	10,957	△12,157
預入金の増減額（△は増加）	22,579	29,590
たな卸資産の増減額（△は増加）	10,839	3,138
仕入債務の増減額（△は減少）	△20,367	△5,651
その他	△27,633	26,859
小計	156,092	257,292
利息及び配当金の受取額	3,250	1,492
利息の支払額	△7,184	△6,778
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△34,980	13,142
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,177	265,148
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△174,585	△152,097
無形固定資産の取得による支出	—	△4,618
貸付金の回収による収入	1,077	10
差入保証金の差入による支出	△19,550	△36,169
差入保証金の回収による収入	20,058	23,520
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△45,092	—
その他	△23,711	△12,175
投資活動によるキャッシュ・フロー	△241,804	△181,530
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△200,000	△100,000
長期借入れによる収入	700,000	600,000
長期借入金の返済による支出	△637,525	△502,396
リース債務の返済による支出	△44	△7,982
株式の発行による収入	—	287,210
配当金の支払額	△34	△17,566
財務活動によるキャッシュ・フロー	△137,604	259,264
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△262,230	342,882
現金及び現金同等物の期首残高	870,888	680,362
現金及び現金同等物の四半期末残高	608,658	1,023,244

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2019年4月25日付で、アリアケジャパン株式会社ほか12社、個人1名から第三者割当増資の払込みを受け、資本金および資本準備金がそれぞれ143,605千円増加しました。

また、2019年8月1日付で、当社の取締役および執行役員に対して特定譲渡制限付株式報酬としての新株式発行を行い、資本金および資本準備金がそれぞれ4,873千円増加しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間において資本金および資本準備金がそれぞれ148,478千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が818,677千円、資本準備金が424,172千円となっております。

（重要な後発事象）

（株式会社ハットリフーズの株式取得（子会社化））

当社は、2019年9月25日の取締役会において、株式会社ハットリフーズの全株式を取得し、子会社化することを決議し、2019年10月1日付けで全株式を取得しました。

1 株式取得の目的

当社は、2019年5月9日に発表した「中期経営計画」において、「ホールディングス型経営の強化と周辺事業への事業領域拡大」を基本戦略としております。この度の株式取得は、2018年7月の株式会社ハートフルワーク（珈琲所コメダ珈琲店のフランチャイズ運営）取得に続くもので、当社グループのさらなる規模拡大と収益機会拡大の一端と位置づけています。

2 株式取得相手の名称・被取得企業の経営者

株式取得相手の名称 マウンテンコーヒー株式会社

被取得企業の経営者 株式会社ハットリフーズ代表取締役 岩山隆司

3 買収する相手会社の名称、事業の内容、規模

①被取得企業の名称 株式会社ハットリフーズ

②事業の内容 飲食店の経営

③資本金の額 10,000千円

4 株式取得の時期

2019年10月1日

5 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

①取得する株式の数 200株

②取得価額 相手先希望により非開示

③取得後の持分比率 100%

6 支払資金の調達方法及び支払方法

自己資金により充当

以上